

晴れの卒業式を迎えられた皆さん、おめでとうございます。皆さんの門出を心からお祝い申し上げます。

今、皆さんは、それぞれの道を歩むにあたり、期待と不安に胸をふくらませ、決意を新たにしていることと思います。

近年、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難な時代になってきています。3年前の春、皆さんの高校生活は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による臨時休業から始まりました。勉強や学校行事、部活動など、様々な制約によって「できない」状況が続く中、皆で意見を出し合い、新たに「できる」かたちを見つけ出し、高校生活を送ってきました。このような経験を通して培った学ぶ姿勢や仲間との絆、鍛えた心身は、今後の人生を生きていくための力強い支えとなるに違いありません。

昨年のサッカーワールドカップカタール大会では、格上の相手からの勝利に日本中が歓喜しました。「個を大切にしながら、組織的に戦う」という監督のビジョンのもと、チームに関わる全員が主体的に考え、活発な議論を重ねたことで互いの信頼関係が深まり、優勝経験のある強豪に、2度の逆転勝利をおさめたのです。最後まで諦めずに勝利を信じて戦い続ける選手たちの姿や、4年後の大会に向けてさらなる進化を誓う彼らの決意に私たちは心を動かされました。

昨年7月、「文化立県・石川」の新たな“知の殿堂”として新石川県立図書館が開館しました。公園のように何気なく訪れることができる場所として設計されたこの図書館は、「県民のパートナーとして共に成長する」ことを目指しています。これは、昭和初期に館長を務め、「図書館活動の父」として知られる中田邦造なかたくにぞう氏の実績を踏まえたものです。「重要なのは学校を離れて後の教育である」という彼の言葉は、生涯学び続けることの大切さを示唆しており、現在の社会においてその重要性が再認識されています。

これからの時代を担う皆さんには、先例のない状況に直面しても、強い信念を持って主体的に行動し、仲間と共に未来を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることを期待しています。

皆さんを今日まで温かく見守り支えてくださった、保護者や先生方への感謝の思いを胸に抱き、ふるさとに誇りと愛着を持ち、心豊かな人生を歩んでください。

皆さんの今後の健康と活躍を祈って、はなむけの言葉といたします。

令和5年3月

石川県教育委員会